

商業世界における性別越境概念

東洋大学 石井由香理

1 目的

本研究の目的は、性別越境者（トランスジェンダー、クロスドレッサーの人々）のジェンダー／セクシュアリティが商業世界においてどのように価値づけられ、取り扱われているかを解明することである。国内トランスジェンダーの歴史のなかで、商業と性別移行は非常に強く結びついてきたにもかかわらず、その実態についてはほとんど把握されてこなかった。そこで、本研究を通じて、かれらの性や身体が、現状、どのようなジェンダー規範のもとにどう商業化され取り扱われているのかを明らかにする。

2 方法

本研究では、主にトランス女性でエンターテインメント／風俗産業に関わる人たちへの半構造化面接法による調査を行う。対象者の許可を得た上で、インタビューデータを文字起こししたもの、もしくはインタビューのメモをデータとして使用する。また、先行して行ったクロスドレッサー、セックスワーカー、フィリピン系トランスジェンダーの人たちについての知識を有するキーパーソンへの聞き取りについても関連データを用いる。

3 結果・結論

社会のなかにトランス女性を受け入れる場が非常に限られていた時代、高級クラブやショーパブといった業種で、ある程度の成功を収めたほんの一握りの人たちだけが、女性のもっとされる容姿と振る舞いが許され生きていくことができた。医療と結びついて、より多くの人たちが望みの性で生きていくことができるようになったという意味では 1990 年代の性同一性障害の登場は状況を大きく変えたといえるだろう。そうした状況下において、商業世界のなかには今までの形態を維持しているものがある一方で、時代のニーズに応じてその形を変化させたり、新しいビジネスを生み出していったものがある。すなわち、商業世界は、これまでのジェンダー秩序を維持しながらも、他方で若年層や素人といった新しいターゲット層に向けて、多様な身体像やアイデンティティを対象とするビジネスを生み出し、時間やコストがかからない、より手軽に利用できる細分化されたサービスを提供している。また、商業化が生み出す社会的弱者の人たちの新たな生きづらさにも着目が必要だろう。例えば、インターネットを介した性の売買が可能になっているという点で、性暴力がより潜在化していることが考えられる。

文献

石井由香理, 2017, 「トランスジェンダーとクロスドレッサーの性の商業化と現状について」『人文学報』513(1): 11-34.